

10/520649

Rec'd PCT/PTO 07 JAN 2005
PCT/JP03/08735

29.5.00

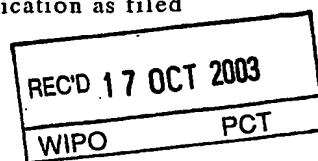
日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

13.08.03

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2002年 7月 9日



出願番号
Application Number: 特願 2002-199842
[ST. 10/C]: [JP 2002-199842]

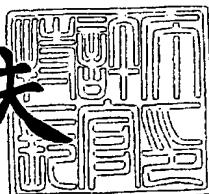
出願人
Applicant(s): セイコーエプソン株式会社

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

2003年10月 1日

今井 康夫



出証番号 出証特 2003-3080433

【書類名】 特許願

【整理番号】 PNSEA116

【提出日】 平成14年 7月 9日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06F 17/60

【発明者】

【住所又は居所】 長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコーホームズ株式会社内

【氏名】 百瀬 宏明

【発明者】

【住所又は居所】 長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコーホームズ株式会社内

【氏名】 北沢 達哉

【特許出願人】

【識別番号】 000002369

【氏名又は名称】 セイコーホームズ株式会社

【代理人】

【識別番号】 110000017

【氏名又は名称】 特許業務法人アイテック国際特許事務所

【代表者】 伊神 広行

【電話番号】 052-218-3226

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 129482

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0105216

特願 2002-199842

ページ： 2/E

【プルーフの要否】 要

出証特 2003-3080433

【書類名】 明細書

【発明の名称】 電子ファイル操作用プログラムおよびレイアウト制御装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 電子ファイルの操作に用いられるプログラムであって、
選択されたファイルと該ファイルに関連付けられた少なくとも一つの関連ファ
イルとを单一のファイルにパッケージ化するパッケージ化モジュールと、
該パッケージ化されたファイルを前記選択されたファイルと前記関連ファイル
とにアンパッケージ化するアンパッケージ化モジュールと、
を備えるプログラム。

【請求項 2】 前記関連ファイルは、前記選択されたファイルのファイル名
に関連付けられたフォルダ内に格納されたファイルである請求項 1 記載のプログ
ラム。

【請求項 3】 前記アンパッケージ化モジュールは、指定されたフォルダに
前記選択されたファイルをアンパッケージ化し、該指定されたフォルダに該選択
されたファイルのファイル名に関連付けられたフォルダを作成すると共に該作成
されたフォルダ内に前記関連ファイルをアンパッケージ化するモジュールである
請求項 2 記載のプログラム。

【請求項 4】 前記関連ファイルは、前記選択されたファイルに記述された
ファイルの格納位置とファイル名とから特定されるファイルである請求項 1 記載
のプログラム。

【請求項 5】 前記アンパッケージ化モジュールは、指定されたフォルダに
前記選択されたファイルをアンパッケージ化し、前記関連ファイルを所定のフォ
ルダにアンパッケージ化すると共に該所定のフォルダに格納されたファイルとし
て前記選択されたファイルに記述された関連ファイルの格納位置を書き換えるモ
ジュールである請求項 4 記載のプログラム。

【請求項 6】 電子ファイルの操作に用いられるプログラムであって、
選択されたファイルと該ファイルに関連付けられたファイルとを单一のファイ
ルにパッケージ化するパッケージ化モジュール
を備えるプログラム。

【請求項 7】 電子ファイルの操作に用いられるプログラムであって、選択されたファイルと該ファイルに関連付けられたファイルとが单一のファイルにパッケージ化されたパッケージファイルを前記選択されたファイルと該ファイルに関連付けられたファイルとして解析するファイル解析モジュールを備えるプログラム。

【請求項 8】 画像を表示する画像領域のレイアウトを制御するレイアウト制御装置であって、

少なくとも一つの画像と画像の差し込みが可能な少なくとも一つの差し込み画像領域とを配置してレイアウトを作成するレイアウト作成手段と、

請求項 1ないし 5いずれか記載のプログラムを用いてファイルを操作するファイル操作手段とを備え、

前記ファイル操作手段は、前記作成したレイアウトの画像と画像領域の配置に関する情報と該レイアウトに用いられる画像ファイルに関する情報を含む情報ファイルを前記選択されたファイルとともに、該レイアウトに用いられる少なくとも一つのファイルを前記関連ファイルとしてファイルを操作する手段であるレイアウト制御装置。

【請求項 9】 画像を表示する画像領域のレイアウトを制御するレイアウト制御装置であって、

少なくとも一つの画像と画像の差し込みが可能な少なくとも一つの差し込み画像領域とを配置してレイアウトを作成するレイアウト作成手段と、

該作成したレイアウトの画像と画像領域の配置に関する情報と該レイアウトに用いられる画像ファイルに関する情報を含む情報ファイルと該レイアウトに用いられる少なくとも一つのファイルとを单一のパッケージファイルとして出力するファイル出力手段と、

を備えるレイアウト制御装置。

【請求項 10】 前記パッケージファイルを前記情報ファイルと前記少なくとも一つのファイルとに分離してファイル出力する分離出力手段を備える請求項 9記載のレイアウト制御装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】**【発明の属する技術分野】**

本発明は、電子ファイル操作用プログラムおよびレイアウト制御装置に関し、詳しくは、電子ファイルの操作に用いられるプログラムおよび画像を表示する画像領域のレイアウトを制御するレイアウト制御装置に関する。

【0002】**【従来の技術】**

従来、この種のレイアウト制御装置としては、画像や差し込み画像領域を配置してレイアウトを作成するものが提案されている。この装置では、作成したレイアウトを保存する際には、レイアウト自体の電子ファイルと共にレイアウトに用いた画像ファイルなどの関連する電子ファイルが所定のフォルダに格納される。また、この種の電子ファイル操作用プログラムとしては、複数の電子ファイルを一つにまとめる圧縮ソフト（例えば、「L H A」、「W i n Z i p」など）が提案されている。このプログラムでは、選択した電子ファイルについてデータを圧縮すると共に一つの書庫ファイルにパッケージ化することができる。

【0003】**【発明が解決しようとする課題】**

しかしながら、上述のレイアウト制御装置では、保存したレイアウトを他のコンピュータ機器などで利用するためには、生成された複数の電子ファイルを全てコピーして利用しなければならず、ファイル数が多い場合などには多大な手間となってしまう。また、上述の圧縮ソフトなどのプログラムでは、複数の電子ファイルを一つのファイルにパッケージ化することができるが、パッケージ化する電子ファイルを個別に選択しなければならず、複数の電子ファイルをコピーするのと同様に手間がかかってしまう。

【0004】

本発明の電子ファイル操作用プログラムは、複数の電子ファイルをパッケージ化して容易に取り扱うことができるものとすることを目的の一つとする。また、本発明の電子ファイル操作用プログラムは、複数のファイルを容易にパッケージ化やアンパッケージ化することを目的の一つとする。また、本発明のレイアウト

制御装置は、レイアウトに関する電子ファイルのやり取りを容易なものとすることを目的の一つとする。

【0005】

【課題を解決するための手段およびその作用・効果】

本発明の電子ファイル操作用プログラムおよびレイアウト制御装置は、上述の目的の少なくとも一部を達成するために以下の手段を探った。

【0006】

本発明の第1のプログラムは、

電子ファイルの操作に用いられるプログラムであって、

選択されたファイルと該ファイルに関連付けられた少なくとも一つの関連ファイルとを单一のファイルにパッケージ化するパッケージ化モジュールと、

該パッケージ化されたファイルを前記選択されたファイルと前記関連ファイルとにアンパッケージ化するアンパッケージ化モジュールと、

を備えることを要旨とする。

【0007】

この本発明の第1のプログラムでは、選択されたファイルとこのファイルに関連付けられたファイルとを单一のファイルにパッケージ化する。したがって、その後のファイル操作を容易なものとすることができます。しかも、一つのファイルを選択するだけで関連するファイルも含めてパッケージ化することができます。また、パッケージ化されたファイルをアンパッケージ化して元に戻すことができる。この結果、元に戻したファイルを他の用途に用いることができる。

【0008】

本発明の第1のプログラムにおいて、前記関連ファイルは、前記選択されたファイルのファイル名に関連付けられたフォルダ内に格納されたファイルであるものとすることもできる。この態様の本発明の第1のプログラムにおいて、前記アンパッケージ化モジュールは、指定されたフォルダに前記選択されたファイルをアンパッケージ化し、該指定されたフォルダに該選択されたファイルのファイル名に関連付けられたフォルダを作成すると共に該作成されたフォルダ内に前記関連ファイルをアンパッケージ化するモジュールであるものとすることもできる。

【0009】

本発明の第1のプログラムにおいて、前記関連ファイルは、前記選択されたファイルに記述されたファイルの格納位置とファイル名とから特定されるファイルであるものとすることもできる。この態様の本発明の第1のプログラムにおいて、前記アンパッケージ化モジュールは、指定されたフォルダに前記選択されたファイルをアンパッケージ化し、前記関連ファイルを所定のフォルダにアンパッケージ化すると共に該所定のフォルダに格納されたファイルとして前記選択されたファイルに記述された関連ファイルの格納位置を書き換えるモジュールであるものとすることもできる。

【0010】

本発明の第2のプログラムは、
電子ファイルの操作に用いられるプログラムであって、
選択されたファイルと該ファイルに関連付けられたファイルとを单一のファイルにパッケージ化するパッケージ化モジュール
を備えることを要旨とする。

【0011】

この本発明の第2のプログラムでは、選択されたファイルとこのファイルに関連付けられたファイルとを单一のファイルにパッケージ化する。したがって、その後のファイル操作を容易なものとすることができる。しかも、一つのファイルを選択するだけで関連するファイルも含めてパッケージ化することができる。

【0012】

本発明の第3のプログラムは、
電子ファイルの操作に用いられるプログラムであって、
選択されたファイルと該ファイルに関連付けられたファイルとが单一のファイルにパッケージ化されたパッケージファイルを前記選択されたファイルと該ファイルに関連付けられたファイルとして解析するファイル解析モジュール
を備えることを要旨とする。

【0013】

この本発明の第3のプログラムでは、パッケージファイルをパッケージ化する

前の選択されたファイルや関連付けられたファイルとして解析する。したがって、パッケージファイルをそのままパッケージ化される前のファイルと同様に扱うことができる。

【0014】

本発明の第1のレイアウト制御装置は、
画像を表示する画像領域のレイアウトを制御するレイアウト制御装置であって
、
少なくとも一つの画像と画像の差し込みが可能な少なくとも一つの差し込み画像領域とを配置してレイアウトを作成するレイアウト作成手段と、

上述のいずれかの態様の本発明の第1のプログラムを用いてファイルを操作するファイル操作手段とを備え、

前記ファイル操作手段は、前記作成したレイアウトの画像と画像領域の配置に関する情報と該レイアウトに用いられる画像ファイルに関する情報とを含む情報ファイルを前記選択されたファイルとともに、該レイアウトに用いられる少なくとも一つのファイルを前記関連ファイルとしてファイルを操作する手段である

ことを要旨とする。

【0015】

この本発明の第1のレイアウト制御装置では、本発明の第1のプログラムを用いてファイルを操作する。したがって、作成したレイアウトに関する情報ファイルを選択するだけで、このレイアウトに用いられるファイルをパッケージ化したりアンパッケージ化したりしてファイル操作することができる。この結果、レイアウトに関するファイルのやり取りを容易なものとすることができます。

【0016】

本発明の第2のレイアウト制御装置は、
画像を表示する画像領域のレイアウトを制御するレイアウト制御装置であって
、
少なくとも一つの画像と画像の差し込みが可能な少なくとも一つの差し込み画像領域とを配置してレイアウトを作成するレイアウト作成手段と、

該作成したレイアウトの画像と画像領域の配置に関する情報と該レイアウトに用いられる画像ファイルに関する情報を含む情報ファイルと該レイアウトに用いられる少なくとも一つのファイルとを单一のパッケージファイルとして出力するファイル出力手段と、

を備えることを要旨とする。

【0017】

この本発明の第2のレイアウト制御装置では、作成したレイアウトに関する情報ファイルとこのレイアウトに用いられるファイルをパッケージファイルとして出力する。したがって、作成したレイアウトを单一のファイルで保存することができる。この結果、レイアウトに関するファイルのやり取りを容易なものとすることができる。

【0018】

こうした本発明の第2のレイアウト制御装置において、前記パッケージファイルを前記情報ファイルと前記少なくとも一つのファイルとに分離してファイル出力する分離出力手段を備えるものとすることもできる。こうすれば、パッケージファイルをパッケージ化する前のファイルに分離することができる。

【0019】

【発明の実施の形態】

次に、本発明の実施の形態を実施例を用いて説明する。本発明の一実施例としてのファイル操作用プログラムは、コンピュータのファイル操作に関するプログラムであり、複数のファイルをパッケージ化するパッケージ化モジュールとパッケージ化されたファイルをアンパッケージ化するアンパッケージ化モジュールとから構成される。

【0020】

図1は、実施例のファイル操作用プログラムにおけるパッケージ化処理の一例を示すフローチャートである。パッケージ化処理では、まず、メインファイルの選択や後述するパッケージファイルの名称、出力先フォルダなどの入力を受け付ける（ステップS100）。ここで、メインファイルとは、パッケージ化の対象となるその他の関連するファイルを特定するファイルであり、その特定方法につ

いては後述する。メインファイルの選択などの受け付けは、実施例では、パッケージ化指示画面を介して受け付けるものとした。パッケージ化指示画面10の一例を図2に示す。パッケージ化指示画面10は、図示するように、メインファイル名やパッケージファイル名、パッケージファイル出力先をそれぞれ入力することができるよう構成されている。また、メインファイル名が入力されると、パッケージファイル名にはメインファイル名にパッケージファイル用の拡張子（例えば、「.pkg」）を付した名称が自動入力され、パッケージファイル出力先にはメインファイルが存在するフォルダの名称が自動入力されるものとし、自動入力された内容を直接修正することができるものとした。なお、メインファイル名の入力は、入力欄右の「参照」ボタンを押下することにより出力されるファイル選択画面11を介して入力することができるものとした。図3に例示するファイル選択画面11は、画面左側にツリー構造で表示されたフォルダを選択すると画面右側に選択したフォルダに存在するファイルが一覧表示され、その一覧表示されたファイルからメインファイルを選択することができる。

【0021】

次に、選択されたメインファイルとメインファイルに関連するファイルとをパッケージ化する（ステップS110）。実施例では、メインファイルと同じフォルダに存在するメインファイルと同じ名称のフォルダ内にあるファイルを関連するファイルとしてパッケージ化するものとした。図4に例示するように、メインファイルとしてファイル「001.***」が選択された場合、同じフォルダ「01」に存在するメインファイルと同じ名称のフォルダ「001」内にあるファイル「0001.***」～「0003.***」が関連するファイルとしてパッケージ化される。

【0022】

こうしてパッケージ化がなされると、パッケージ化されたファイルをパッケージファイルとして出力し、パッケージ化処理を終了する（ステップS120）。パッケージファイルの出力は、実施例では、ステップS100で入力された名称と出力先フォルダに基づいて、パッケージファイルを出力するものとした。図5は、入力された名称が「001.pkg」、出力先フォルダが「01」の場合の

パッケージファイルの出力結果を示す説明図である。なお、パッケージファイルは、Run-Length法やハフマン法などのデータ圧縮方法によりデータ圧縮処理がなされたファイルとして出力するものとしてもよい。

【0023】

図6は、実施例のファイル操作プログラムにおけるアンパッケージ化処理の一例を示すフローチャートである。実施例では、図7に例示するように、前述したパッケージ化処理により出力されたパッケージファイル「001.pkg」をフォルダ「02」にコピーしてアンパッケージ化する場合を具体例として説明する。アンパッケージ化処理では、図6に示すように、まず、アンパッケージ化するパッケージファイルの選択とメインファイルの出力先フォルダの入力を受け付ける（ステップS200）。実施例では、アンパッケージ化指示画面を介してパッケージファイルの選択などの入力を受け付けるものとした。図8に例示するアンパッケージ化指示画面12は、パッケージファイル名やメインファイル出力先をそれぞれ入力することができるよう構成されており、パッケージファイル名が入力されるとメインファイル出力先にパッケージファイルが存在するフォルダの名称が自動入力され、自動入力された内容を修正することもできる。なお、パッケージファイル名の入力は、前述したパッケージ化指示画面10と同様に、入力欄右の「参照」ボタンを押下することにより出力されるファイル選択画面11を介して入力することができるものとした。具体例では、アンパッケージ化するパッケージファイルとしてパッケージファイル「001.pkg」を選択し、メインファイルの出力先としてフォルダ「02」を入力する。

【0024】

次に、選択されたパッケージファイルをアンパッケージ化して、アンパッケージ化処理を終了する（ステップS210）。実施例では、ステップS200で入力された出力先フォルダにメインファイルをアンパッケージ化して出力すると共に同じフォルダにメインファイルの名称と同じ名称のフォルダを作成し、この作成したフォルダ内にパッケージファイルに含まれる関連するファイルをアンパッケージ化して出力するものとした。図9は、具体例のアンパッケージ化処理により作成されるファイルを示す説明図である。図示するように、パッケージファ

ル「001.pkg」に含まれるメインファイル「001.***」が出力先フォルダ「02」にアンパッケージ化されて出力されると共にメインファイルと同じ名称のフォルダ「001」が作成され、このフォルダ「001」内に関連するファイル「0001.***」～「0003.***」がアンパッケージ化されて出力される。

【0025】

以上説明したファイル操作用プログラムによれば、複数の電子ファイルをパッケージ化してパッケージファイルとして出力し、その後のファイル操作を容易にすることができる。しかも、メインファイルを選択するだけで関連するファイルも含めて容易にパッケージ化することができる。また、パッケージ化したファイルをアンパッケージ化し、元のファイルに戻して利用することができる。

【0026】

次に、実施例のファイル操作用プログラムをレイアウト制御装置20のファイル操作処理に組み込んだ場合について説明する。図10は、レイアウト制御装置20を含む印刷システムの構成の概略を示す構成図である。実施例のレイアウト制御装置20は、画像を印刷するための画像領域をレイアウトするレイアウト制御プログラムがインストールされた汎用のパーソナルコンピュータとして構成されており、キーボードやマウスなどの入力デバイスを介してユーザからのコマンドを入力する入力部22と、ディスプレイとしての表示部24と、プログラムや画像などのデータを記憶する記憶部26と、所定の演算を行なうと共に全体をコントロールする制御部28とを備える。また、実施例のレイアウト制御装置20には、プリンタ18が接続されている。このプリンタ18は、レイアウト制御装置20として機能するパーソナルコンピュータからの印刷指示に基づいてレイアウトされた画像などを印刷用紙に印刷する。

【0027】

図11は、実施例のレイアウト制御装置20により実行されるメインルーチンの一例を示すフローチャートである。この処理は、パーソナルコンピュータによりレイアウト制御プログラムが実行されたときの処理である。実施例のレイアウト制御装置20では、まず、図12に例示する用紙設定画面30を用いて用紙サ

イズや用紙方向、印刷可能領域などの設定処理を実行する（ステップS300）。図12の例では、用紙サイズについてはプルダウンメニューにより選択できるようになっており、用紙方向については選択的なボタンにより「縦」と「横」とが選択できるようになっている。また、印刷可能領域については、四辺に標準の縁（マージン）が設定された「標準」と最大の印刷可能領域を設定する「最大」と縁なし印刷が可能な「四辺フチなし」とが選択できるようになっている。ここで、「四辺フチなし」では、印刷時の用紙の位置ズレに伴って僅かな余白部が生じないようマイナス値のマージンが設定されるようになっている。また、用紙サイズで「ロール紙」が設定されたときには、印刷終了時に自動的に切断する「オートカッター」の設定もできるようになっている。

【0028】

こうして用紙設定画面30による各設定が選択されて編集ボタン32が選択されると、図13に例示するレイアウト作業画面40とツールボックス画面50とを用いてレイアウト作成編集処理を実行する（ステップS310）。図13に例示するレイアウト作業画面40には、用紙領域41と印刷可能領域42とが表示される作業領域43と、ファイル操作や編集などをプルダウンメニューによる選択で行なうツールバー44とが表示される。ツールボックス画面50には、レイアウト作業画面40の印刷可能領域42内に対する種々の操作を行なうための各種ボタン51～60と、印刷可能領域42に表示された画像領域の層の順位や表示および非表示を表示する画像領域表示操作部61と、レイアウト作業画面40の印刷可能領域42に設定された画像領域のうち選択された画像領域の印刷可能領域42に対する位置情報を表示する位置情報表示部68とが表示される。ツールボックス画面50に表示されたボタンとしては、写真などの画像を差し込み可能な画像領域を設定するための差し込み写真枠ボタン51や画像を読み込んで写真などの画像の背景やフレームや飾りなどを作成するための画像領域を設定するための背景・フレーム・飾り枠ボタン52、文字列を入力する領域を設定するための文字列ボタン53、直線を描くための直線ボタン54、画像領域を選択するための選択ボタン55、選択された画像領域を削除する削除ボタン56、選択された画像領域を最前面の層に移行する最前面ボタン57、選択された画像領域を

一つ前面の層に移行させる前面ボタン58、選択された画像領域を最背面の層に移行する最背面ボタン59、選択された画像領域を一つ背面の層に移行させる背面ボタン60が用意されている。

【0029】

図14に差し込み写真枠ボタン51により差し込み写真枠71, 72が設定されると共に背景・フレーム・飾り枠ボタン52によりフレーム画像73が設定されたときのレイアウト作業画面40とツールボックス画面50とを示す。図示するように、レイアウト作業画面40には差し込み写真枠71、差し込み写真枠72、フレーム画像73が表示され、ツールボックス画面50の画像領域表示操作部61にはレイアウト作業画面40の印刷可能領域42に設定された画像領域としての差し込み写真枠71に対応する差し込み写真枠1の操作ボタン62、フレーム画像73に対応する「Image007.jpg」の操作ボタン63、差し込み写真枠72に対応する差し込み写真枠2の操作ボタン64が上層から順に上から表示され、位置情報表示部68にはレイアウト作業画面40の印刷可能領域42内で選択されている画像領域（図14では差し込み写真枠72）の印刷可能領域42内における位置が表示される。なお、レイアウト作業画面40の印刷可能領域42内に設定されるフレーム画像73には、ハート形の透明領域74が設定されており、この設定された透明領域74には下層の差し込み写真枠72の相当する部分が見えるようになっている。

【0030】

以上、実施例のレイアウト制御装置20におけるレイアウト作成編集処理について説明した。以下に、実施例のファイル操作用プログラムを組み込んだファイル操作処理について説明する。ファイル操作処理は、作成したレイアウトを保存するレイアウト保存処理と保存したレイアウトを読み込むレイアウト読み込み処理とからなる。以下に、まずレイアウト保存処理について説明し、その後レイアウト読み込み処理について説明する。

【0031】

レイアウト保存処理は、図15に例示するプルダウンメニュー46により「通常保存」や「パッケージ化保存」を選択することにより実行される。なお、プル

ダウンメニュー46は、レイアウト作業画面40のツールバー44の「ファイル」メニューを選択することにより表示される。「通常保存」は、レイアウトの作成編集処理で設定した情報をテキスト形式で記述したスクリプトファイルと、画像領域に読み込まれた背景やフレーム、飾りなどの画像に対応する画像ファイルと、レイアウトの全体イメージを縮小表示するサムネイルファイルとを作成して保存する保存形式であり、「パッケージ化保存」は、実施例のファイル操作用プログラムのパッケージ化処理により、「通常保存」で作成される各ファイルをパッケージファイルとして出力する保存形式である。

【0032】

「通常保存」によりレイアウトの保存がなされると、指定されたフォルダにスクリプトファイルを作成すると共にスクリプトファイルと同じ名称のフォルダを作成し、この作成したフォルダにサムネイルファイルと画像ファイルを作成する。図16は、「通常保存」によりレイアウトの保存がなされたときにレイアウト制御装置20の記憶部26に作成されるファイルの一例を示す説明図である。図示するように、スクリプトファイル「AAA. p f g」が指定されたフォルダ「P I F D e s i g n e r」に作成されると共に、同じフォルダにスクリプトファイルと同じ名称のフォルダ「AAA」が作成され、さらにフォルダ「AAA」にはサムネイルファイル「T H U M B. u s f」と画像ファイル「I m g 0 0 0 . e f f」とが作成される。

【0033】

一方、「パッケージ化保存」によりレイアウトの保存がなされると、「通常保存」による場合と同じようにスクリプトファイルやサムネイルファイル、画像ファイルを作成した後、スクリプトファイルをメインファイルとして前述した実施例のファイル操作用プログラムのパッケージ化処理を実行する。即ち、スクリプトファイルをメインファイルとすると、図4と図16との比較から解かるように、スクリプトファイル「AAA. p f g」と同じフォルダのスクリプトファイル名と同じ名称のフォルダ「AAA」内に存在するファイル（サムネイルファイル「T H U M B. u s f」と画像ファイル「I m g 0 0 0 . e f f」）がメインファイルに関連するファイルとなる。従って、スクリプトファイルを選択してパッ

ケージ化処理を実行することにより、スクリプトファイルとサムネイルファイルと画像ファイルとをパッケージ化し、パッケージファイルとして出力することができる。なお、「パッケージ化保存」による場合、パッケージファイルを出力した後、スクリプトファイルやサムネイルファイル、画像ファイルを自動的に削除するものとしてもよい。また、スクリプトファイルやサムネイルファイル、画像ファイルの作成はメモリ上で仮想的に行ない、この仮想的に作成したファイルに基づいてパッケージファイルのみを出力するものとしてもよい。

【0034】

レイアウト読込処理は、前述したプルダウンメニュー46により「開く」を選択すると共にレイアウト保存処理で作成したスクリプトファイルやパッケージファイルを指定して実行される。スクリプトファイルを指定してレイアウト読込処理を実行する場合には、指定したスクリプトファイルと共にサムネイルファイルや画像ファイルをそのまま読み込み、レイアウト作成編集処理が可能となる。

【0035】

一方、パッケージファイルを指定してレイアウト読込処理を実行する場合には、前述した実施例のファイル操作用プログラムのアンパッケージ化モジュールを利用してパッケージファイルに含まれるスクリプトファイルやサムネイルファイル、画像ファイルを解析する。そして、解析した各ファイルをメモリ上で仮想的に作成してレイアウトを読み込むものとした。なお、この場合、スクリプトファイルやサムネイルファイル、画像ファイルは出力されないが、前述した「通常保存」によるレイアウトの保存を行なうことにより各ファイルを出力することができる。

【0036】

以上説明した実施例のレイアウト制御装置20によれば、実施例のファイル操作用プログラムをファイル操作処理に適用するから、レイアウトに関するファイルの保存やファイルのやり取りを容易なものとすることができます。

【0037】

実施例のレイアウト制御装置20では、レイアウト保存処理は、プルダウンメニュー46により「通常保存」や「パッケージ化保存」を選択して実行するもの

としたが、「通常保存」は行なわず、常に「パッケージ化保存」によりレイアウトを保存するものとしてもよい。

【0038】

実施例のレイアウト制御装置20では、パッケージファイルを指定してレイアウト読込処理を実行する場合には、パッケージファイルに含まれるスクリプトファイルやサムネイルファイル、画像ファイルを解析するものとしたが、実施例のファイル操作用プログラムのアンパッケージ化処理をそのまま適用するものとしてもよい。即ち、パッケージファイルに含まれるスクリプトファイルやサムネイルファイル、画像ファイルをアンパッケージ化して出力し、出力した各ファイルを読み込むものとしてもよい。

【0039】

実施例のファイル操作用プログラムでは、メインファイルと同じ名称のフォルダ内にあるファイルを関連するファイルとしてパッケージ化するものとしたが、メインファイルから関連するファイルを特定できればよく、メインファイルに記述されたファイルを関連するファイルとしてパッケージ化するものとしてもよい。例えば、テキスト形式のメインファイルに位置と名称が記述されたファイルを関連するファイルとしてパッケージ化するものとしてもよい。また、このようにパッケージ化されたパッケージファイルをアンパッケージ化する場合、関連するファイルを所定の位置にアンパッケージ化して出力すると共にメインファイルに記述された関連するファイルの位置を実際に出力した位置で書き換えるものとすればよい。なお、こうしたファイル操作用プログラムを実施例のレイアウト制御装置20のファイル操作処理に適用することもできる。即ち、図17に例示するスクリプトファイル「BBB. p f g」とサムネイルファイル「THUMB. usf」と画像ファイル「Img000. eff」とからなるレイアウトをパッケージ化保存する場合、図18に例示するスクリプトファイル「BBB. p f g」の記述内容（サムネイルファイルと画像ファイルのファイル名と格納フォルダ）を参照してサムネイルファイルと画像ファイルを特定し、パッケージファイルを出力するものとすればよい。そして、このパッケージファイルをアンパッケージ化する場合には、サムネイルファイルと画像ファイルを実際に出力したフォルダ

でスクリプトファイル「B B B. p f g」の記述内容を書き換えればよい。

【0040】

実施例のファイル操作用プログラムでは、パッケージ化モジュールとアンパッケージ化モジュールとから構成されるものとしたが、パッケージ化モジュールのみで構成されるものとしてもよい。また、パッケージファイルを解析してパッケージ化する前のファイルとして扱う解析モジュールのみで構成されるものとしてもよい。

【0041】

実施例のファイル操作用プログラムでは、適用例として、レイアウト制御装置20のファイル操作処理に組み込んだ場合を説明したが、複数のファイルを単一のファイルにパッケージ化したり、パッケージ化されたファイルをアンパッケージ化して利用するその他の装置にも適用することができる。例えば、ネットワークを介して接続されたクライアントコンピュータに複数のファイルを配信するファイル配信装置に適用したり、実施例のレイアウト制御装置20で作成されたレイアウトを印刷する印刷装置に適用することもできる。

【0042】

以上、本発明の実施の形態について実施例を用いて説明したが、本発明はこうした実施例に何等限定されるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲内において、種々なる形態で実施し得ることは勿論である。

【図面の簡単な説明】

【図1】

実施例のファイル操作用プログラムにおけるパッケージ化処理の一例を示すフローチャートである。

【図2】

パッケージ化指示画面10の一例を示す説明図である。

【図3】

ファイル選択画面11の一例を示す説明図である。

【図4】

パッケージ化処理の対象となるメインファイルと関連するファイルの一例を示

す説明図である。

【図5】

パッケージ化処理により作成されるファイルの一例を示す説明図である。

【図6】

実施例のファイル操作用プログラムにおけるアンパッケージ化処理の一例を示すフローチャートである。

【図7】

アンパッケージ化処理の対象となるパッケージファイルの一例を示す説明図である。

【図8】

アンパッケージ化指示画面12の一例を示す説明図である。

【図9】

アンパッケージ化処理により作成されるファイルの一例を示す説明図である

【図10】

本発明の一実施例であるレイアウト制御装置20を含む印刷システムの構成の概略を示す構成図である。

【図11】

実施例のレイアウト制御装置20により実行されるメインルーチンの一例を示すフローチャートである。

【図12】

用紙設定画面30の一例を示す説明図である。

【図13】

レイアウト作業画面40とツールボックス画面50の一例を示す説明図である。

。

【図14】

差し込み写真枠71, 72とフレーム画像73が設定されたときのレイアウト作業画面40とツールボックス画面50とを示す説明図である。

【図15】

プルダウンメニュー46の一例を示す説明図である。

【図16】

「通常保存」によりレイアウトが保存されたときにレイアウト制御装置20の記憶部26に作成されるファイルの一例を示す説明図である。

【図17】

変形例のスクリプトファイルとサムネイルファイルと画像ファイルの一例を示す説明図である。

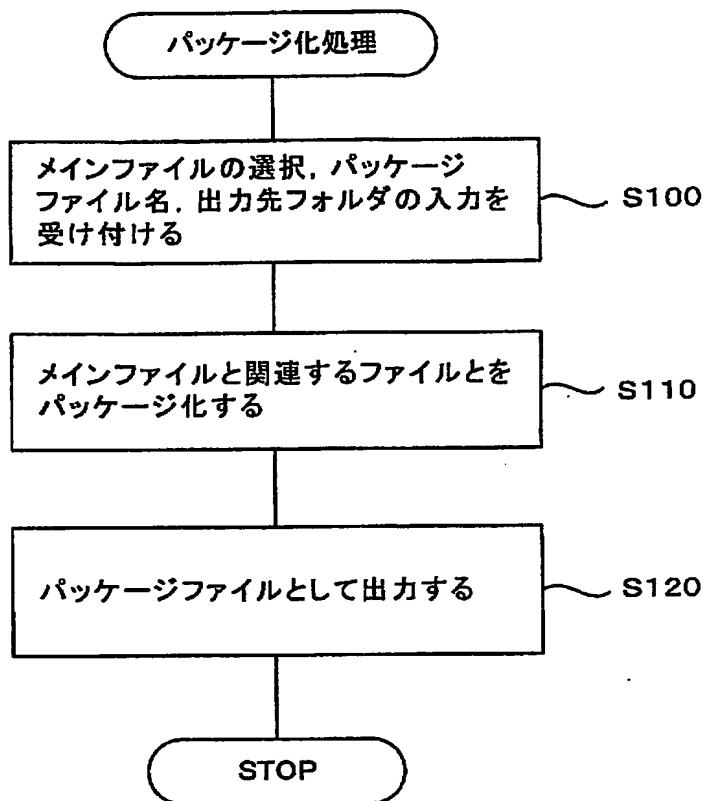
【図18】

変形例のスクリプトファイルの記述内容の一例を示す説明図である。

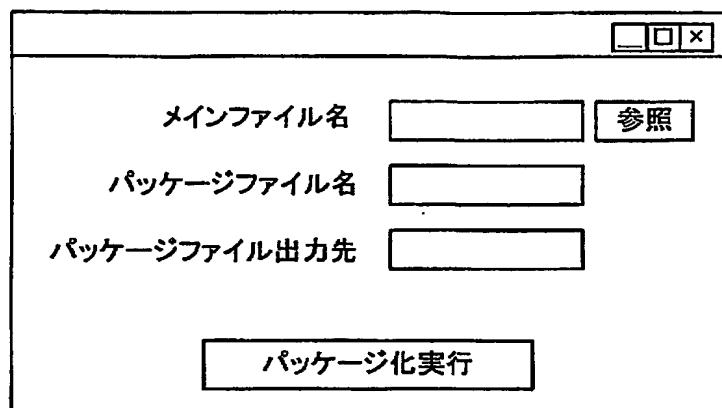
【符号の説明】

10 パッケージ化指示画面、11 ファイル選択画面、12 アンパッケージ化指示画面、18 プリンタ、20 レイアウト制御装置、22 入力部、24 表示部、26 記憶部、28 制御部、30 用紙設定画面、32 編集ボタン、40 レイアウト作業画面、41 用紙領域、42 印刷可能領域、43 作業領域、44 ツールバー、46 プルダウンメニュー、50 ツールボックス画面、51 差し込み写真枠ボタン、52 背景・フレーム・飾り枠ボタン、53 文字列ボタン、54 直線ボタン、56 削除ボタン、57 最前面ボタン、58 前面ボタン、59 最背面ボタン、60 背面ボタン、61 画像領域表示操作部、62～64 操作ボタン、65 表示選択ボタン、68 位置情報表示部、71, 72 差し込み写真枠、73 フレーム画像、74 透明領域。

【書類名】 図面
【図 1】

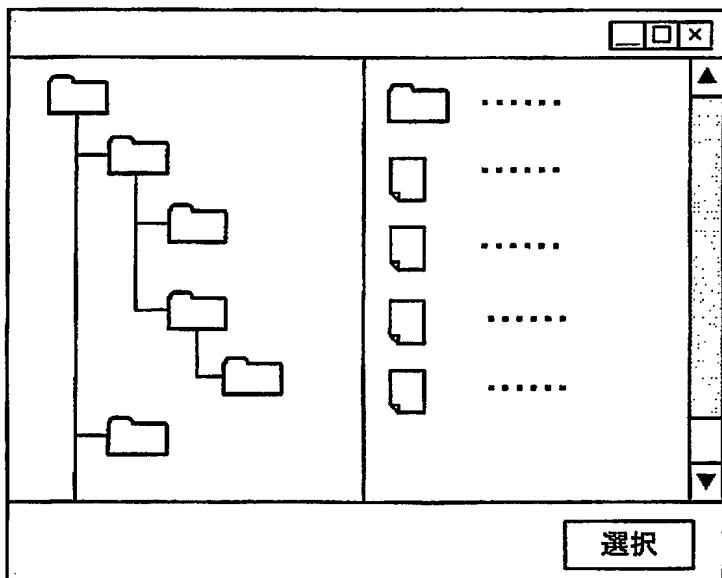


【図2】



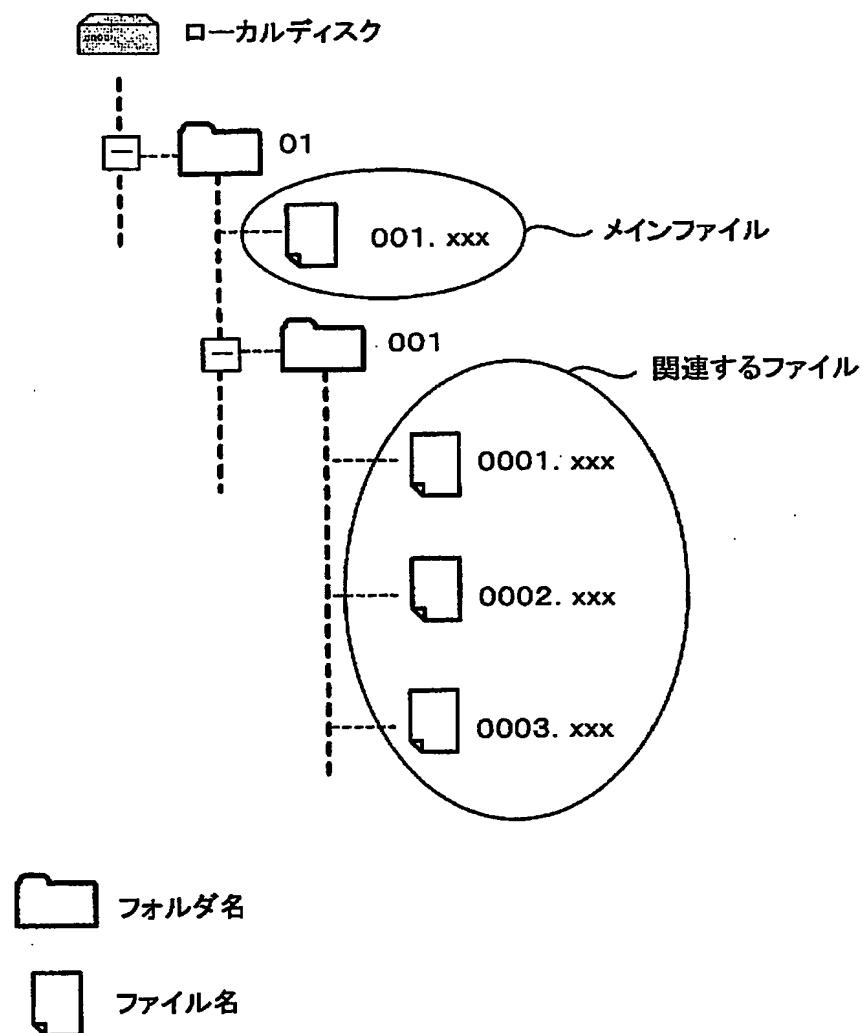
10

【図3】

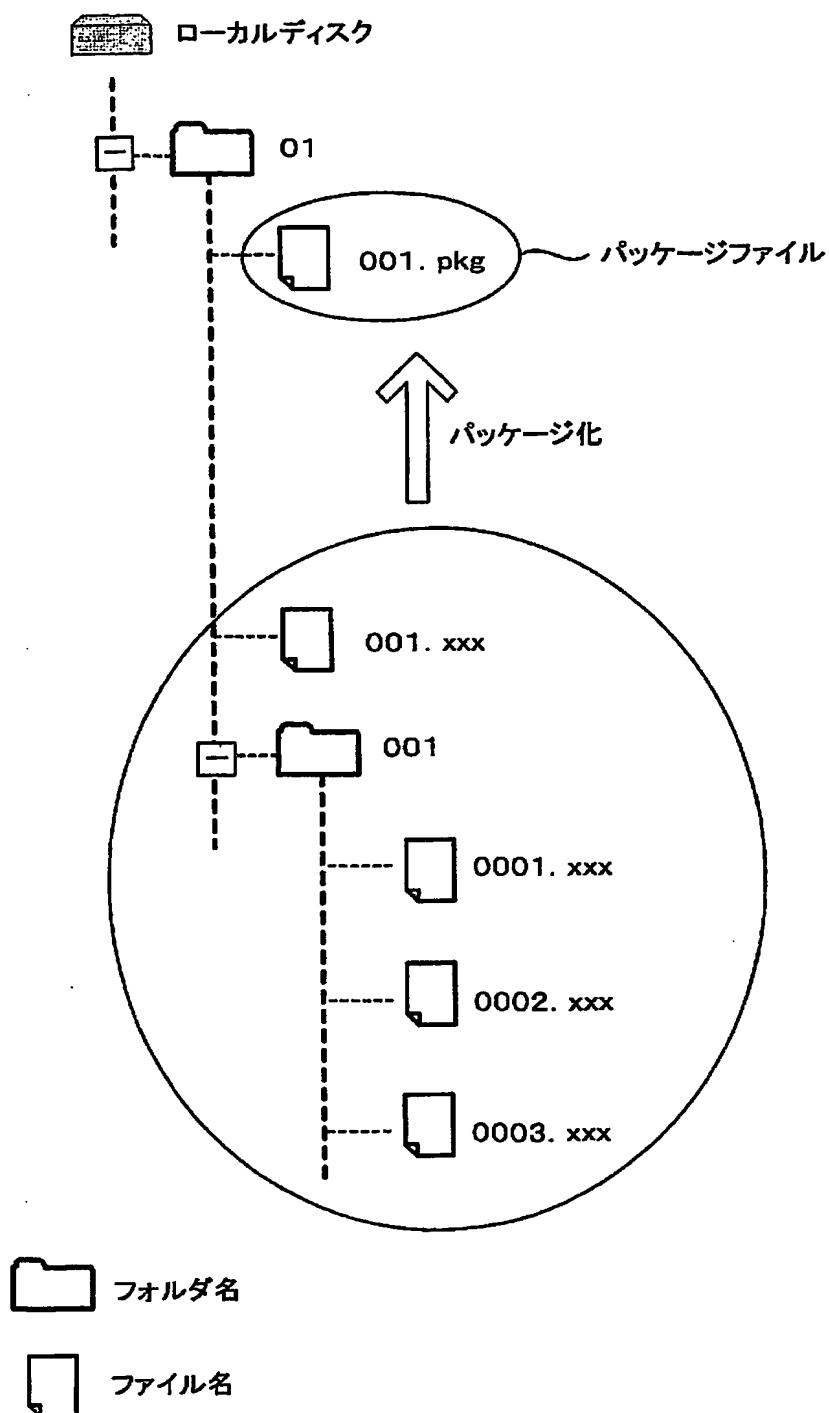


11

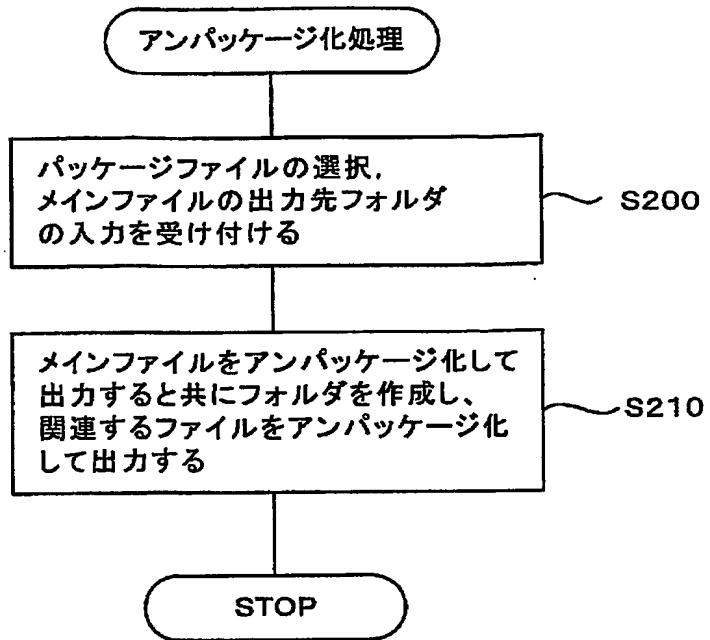
【図4】



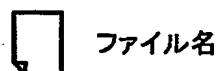
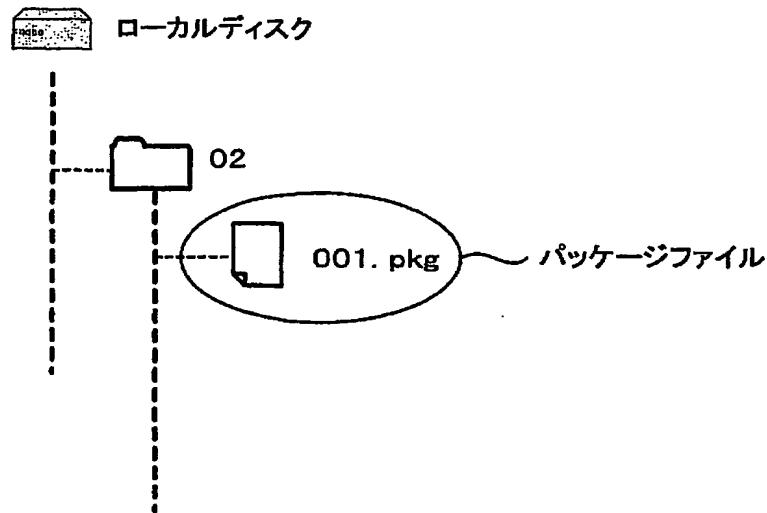
【図 5】



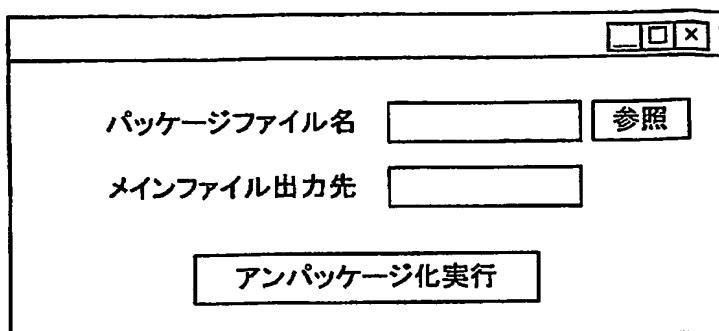
【図6】



【図7】

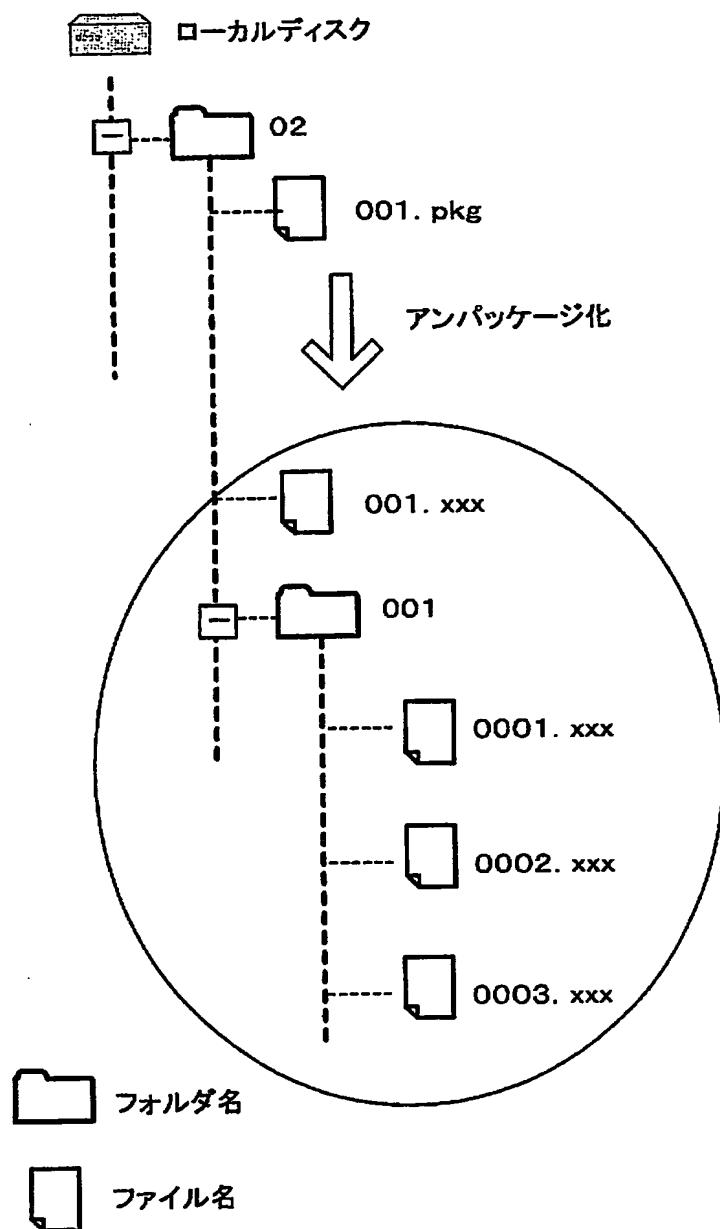


【図 8】

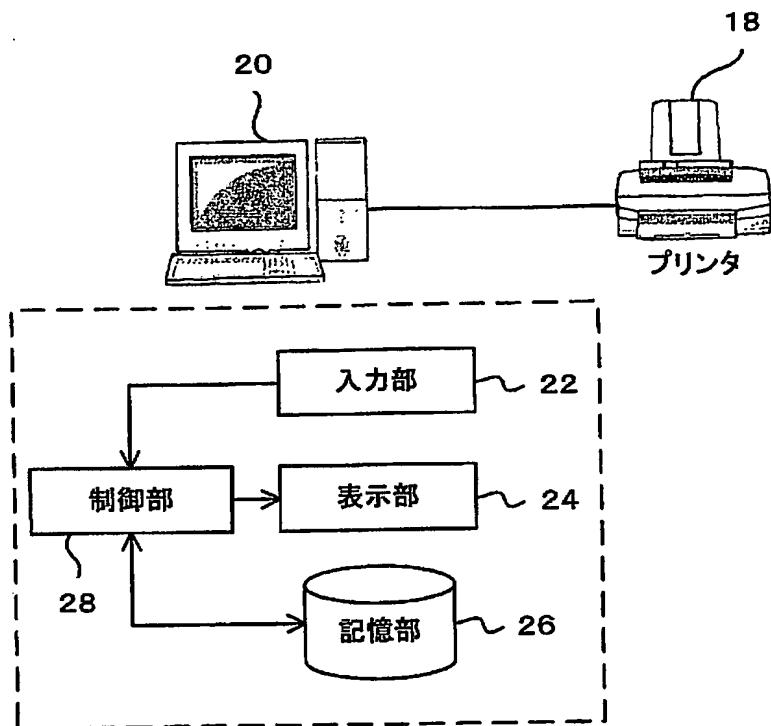


12

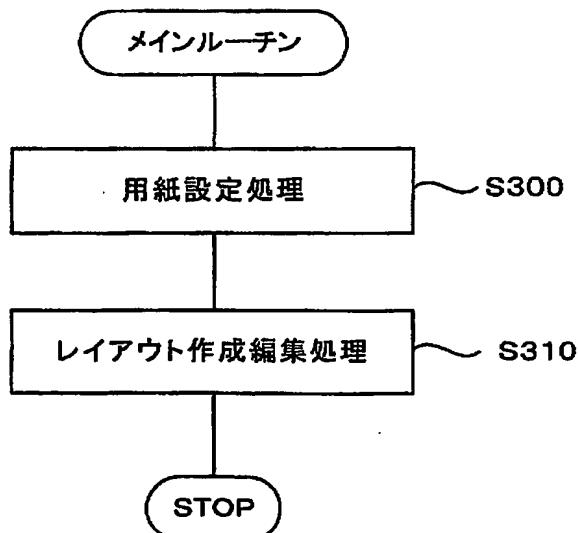
【図9】



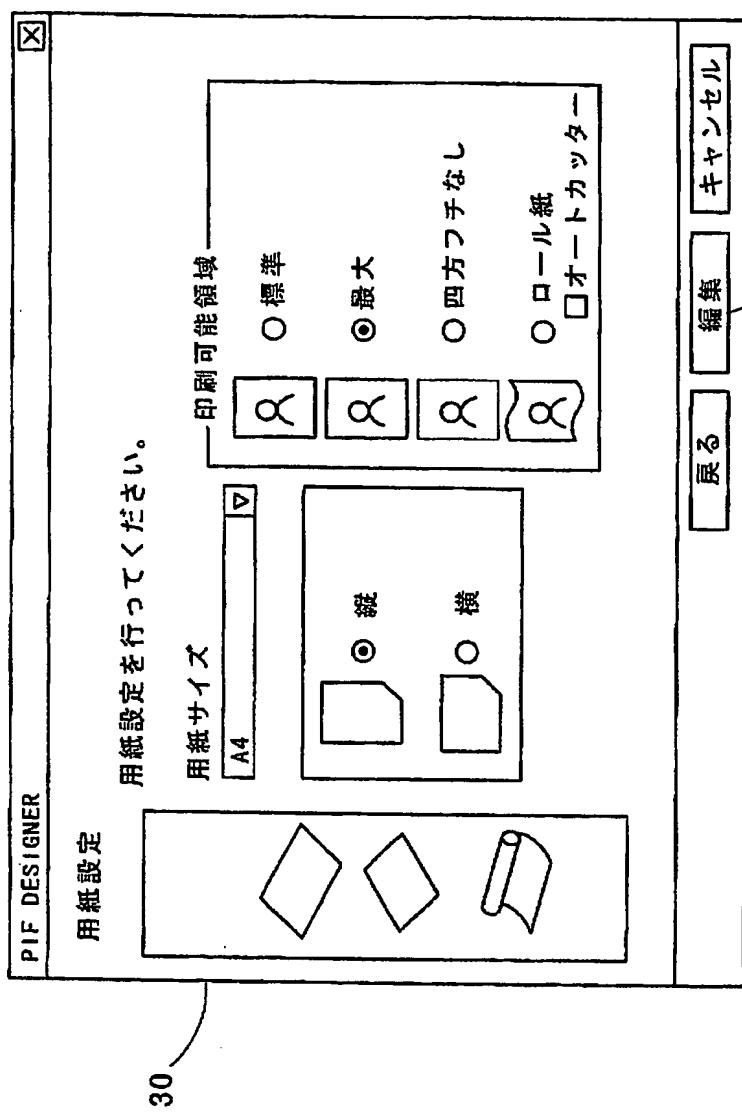
【図10】



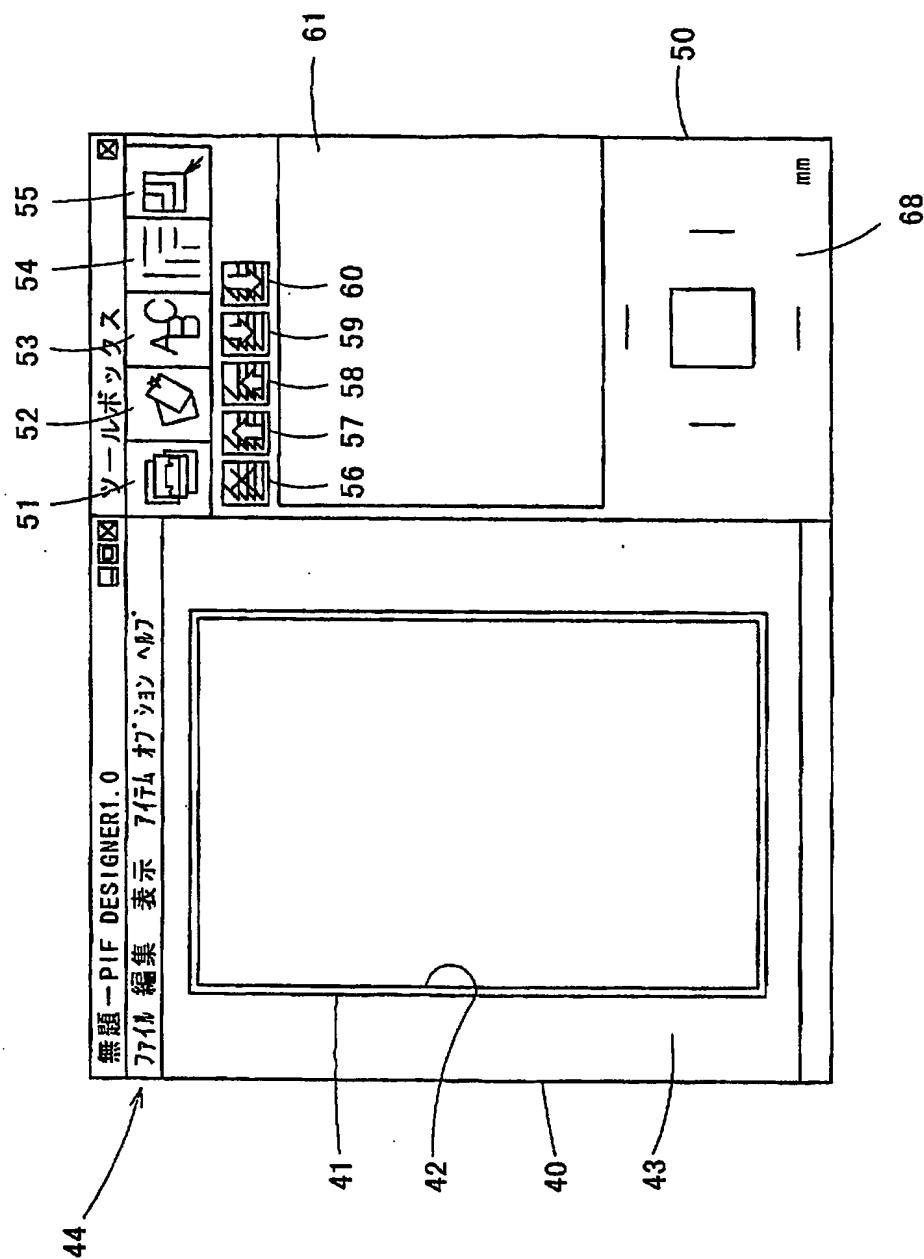
【図11】



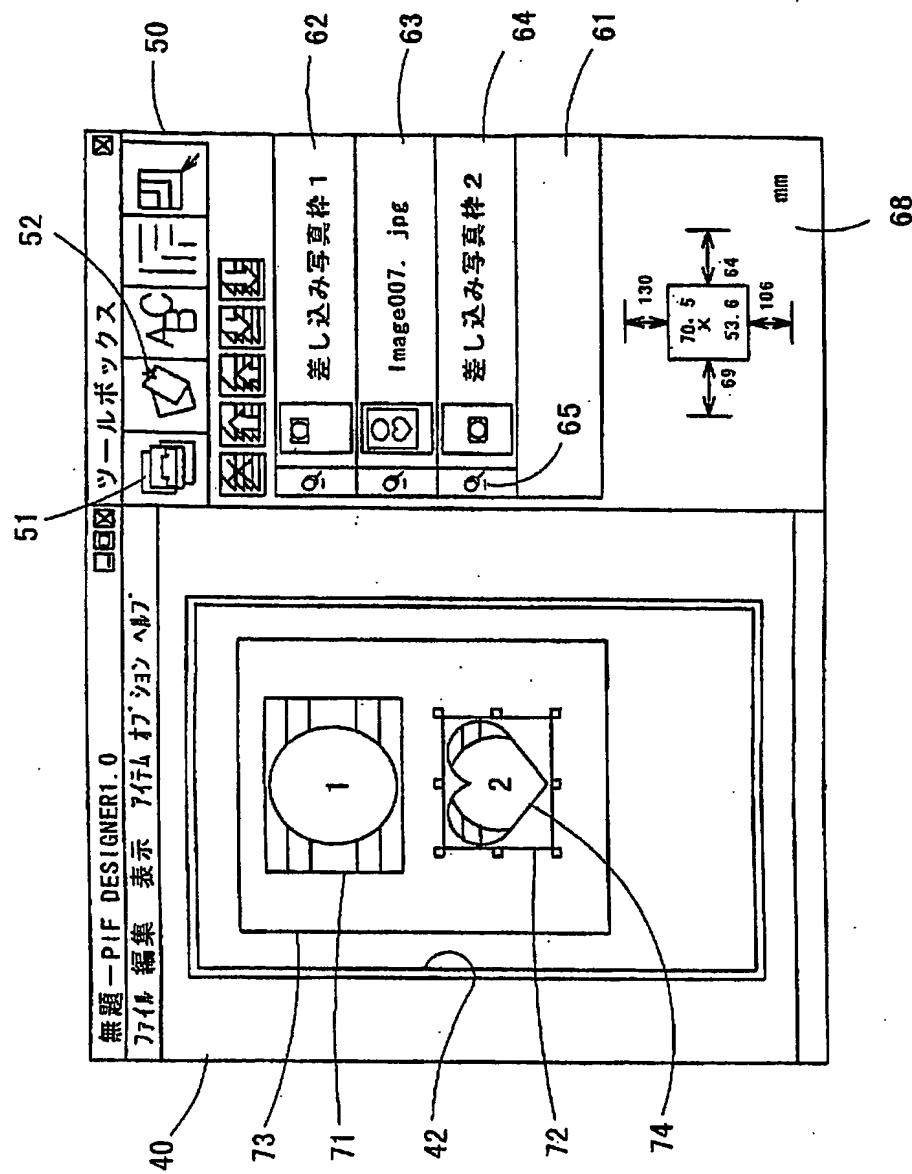
【図12】



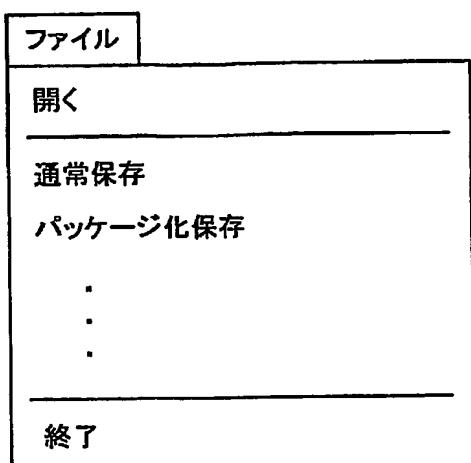
【図13】



【図14】

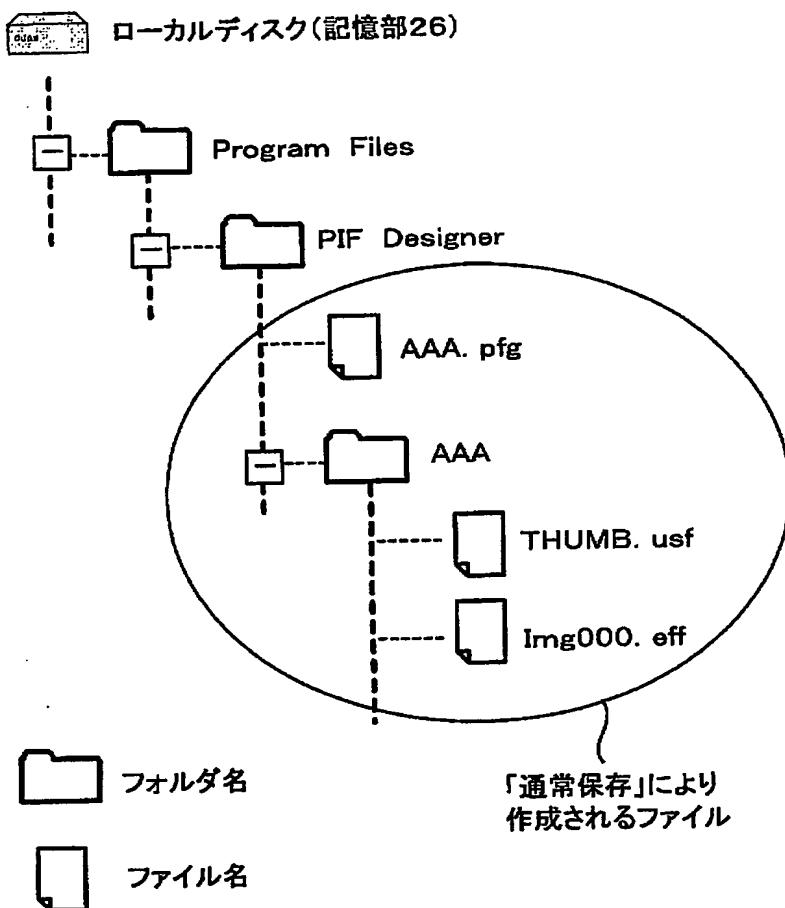


【図15】

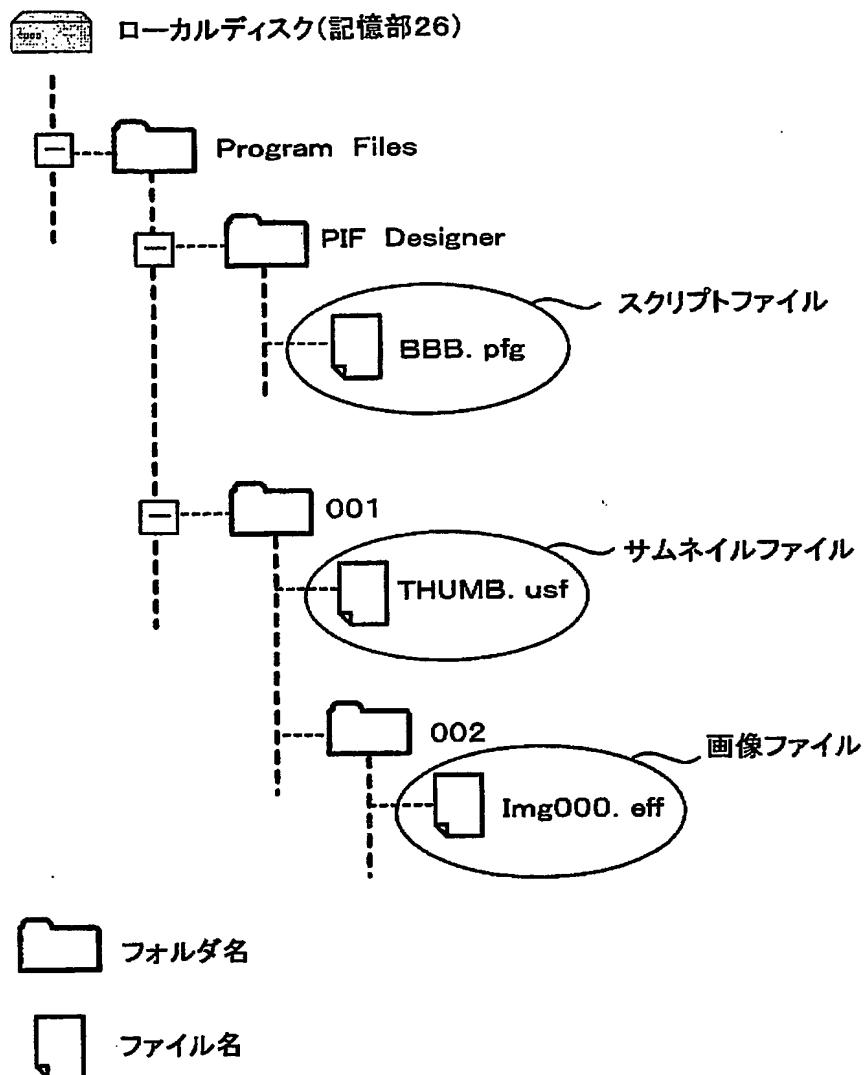


46

【図16】



【図17】



【図18】

[HEADER]

HdRevision=02.10
HdAuthor=""
HdCopyright=""
HdCopyFlag=Possible
HdChangeFlag=Possible
HdKeyWord=""
HdTitle=""
HdComment=""
HdDirection=Vertical
HdSound=""
HdCapacity=735905
HdThumbnail=C:\Program Files\001\THUMB.USF
HdPhysicalPaperSize=A4
HdMargins=42,42,42,42
HdApplication=""

サムネイルファイルのファイル名と
格納フォルダ

[PAGE]

DrawPicture("",2,642,2062,2294,2904,0,1,4,0,0,0,0)
DrawPicture("",1,579,768,2325,1705,0,1,4,0,0,0,0)
DrawPicture(C:\Program Files\001\002\Image000.eff,
0,221,305,2578,3188,0,0,4,0,0,0,0)

画像ファイルのファイル名と格納フォルダ

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 複数の電子ファイルをパッケージ化して容易に取り扱うことができるものとする。

【解決手段】 メインファイルの選択やパッケージファイルの名称、出力先フォルダなどの入力を受け付けて（S100）、選択されたメインファイルと同じフォルダに存在するメインファイルと同じ名称のフォルダ内にあるファイルを関連するファイルとしてパッケージ化し（S110）、パッケージ化されたファイルを入力された名称と出力先フォルダに基づいてパッケージファイルとして出力する（S120）。この結果、複数の電子ファイルをパッケージ化して容易に取り扱うことができるものとすることができる。

【選択図】 図1

特願 2002-199842

出願人履歴情報

識別番号 [000002369]

1. 変更年月日 1990年 8月20日

[変更理由] 新規登録

住所 東京都新宿区西新宿2丁目4番1号
氏名 セイコーエプソン株式会社